

# 地域新電力会社スタート!

豊かな環境を引き継ぎ、次世代の子どもたちにとって明るい未来となるよう、再生可能エネルギーの活用が求められています。そのような中、本市では地域新電力会社を設立し、4月から電力の供給を開始します。再生可能エネルギーの活用により、カーボンニュートラルの実現につなげます。



市清掃センター

## 電

気代が高くなった。そう思われる方も多いことでしょう。それもそのはず、石油・液化天然ガス・石炭など生活に必要なエネルギー価格が高騰しているからです。日本は、石油などの化石燃料の多くを輸入しているため、世界情勢の影響を受けやすいのです。

また、化石燃料を燃やすと二酸化炭素が発生します。二酸化炭素は、地球温暖化の原因とされている温室効果ガスの大部分を占めているため、二酸化炭素を排出しないクリーンエネルギーへの転換が求められています。クリーンエネルギーには、代表的なものに太陽光発電があり、再生可能エネルギー

とも呼ばれています。

本市は、昨年9月28日に、民間事業者と連携して、再生可能エネルギーを活用し、電力を供給する地域新電力会社「鈴鹿グリーンエナジー株式会社」を設立しました。地域新電力会社とは、地域の行政・事業者などが共同出資して設立する地域密着型の小売電気事業者のことを指します。

温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を表明した鈴鹿市。

2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みを、事業者や市民の皆さんと一体となって、積極的に進めていきます。

## 鈴鹿グリーンエナジー(株)とは

鈴鹿グリーンエナジー(株)は、東邦ガス(株)、アーバンエナジー(株)、(株)三十三銀行と本市が共同出資して設立した地域新電力会社です。

市清掃センターでの廃棄物の焼却熱から発電した電力や、市内の太陽光発電所などから調達した電力を、今年の4月から市の47施設(市役所本庁舎、消防本部、考古博物館、AGF鈴鹿体育館など)に供給します。

これにより、鈴鹿グリーンエナジー(株)は、地域内の再生可能エネルギーを地域内で消費する「エネルギーの地産地消」と、「温室効果ガス排出量の削減」を図ります。

## 鈴鹿グリーンエナジー株式会社 設立式



▲地域新電力会社設立式



▲市清掃センター

## 会社概要

設立 2022年9月28日  
資本金 2,000万円

### 出資者および出資比率

東邦ガス(株)・・・42.5%  
アーバンエナジー(株)・・・42.5%  
鈴鹿市・・・10%  
(株)三十三銀行・・・5%

## 電力供給を受ける施設(一部)



## 発電



## 地域新電力会社による電力供給イメージ



## 供給先

市役所本庁舎  
消防本部  
送水場(水道)  
考古博物館  
AGF鈴鹿体育館 など  
合計：47施設

## スペシャルインタビュー

# カーボンニュートラル社会の実現に向けて

カーボンニュートラルに向けて、4月から電力供給を開始する鈴鹿グリーンエナジー(株)代表取締役社長の佐宗利幸さんに、インタビューしました。



鈴鹿グリーンエナジー(株)代表取締役社長  
佐宗 利幸さん(東邦ガス(株))

## 鈴鹿グリーンエナジー(株)の設立目的についてお聞かせください。

鈴鹿グリーンエナジー(株)は、「鈴鹿市清掃センターに搬入される一般廃棄物を焼却する際に発生する熱を利用し、発電した電気を有効活用することで、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けて、地域の脱炭素化、電気の地産地消の推進に取り組む」という目的のもと設立しました。

会社のロゴマークは、電力会社でよく使われる電気のアイコンと鈴鹿のSをモチーフにしつつ、鈴鹿市章のモチーフでもある「鈴」に見立てています。

そして、鈴が笑っているように見え、鈴鹿グリーンエナジー(株)で供給する電力は住む人にも地球にもやさしく、皆さんを笑顔にしたいという願いを込めています。

## ロゴマーク



鈴鹿グリーンエナジー株式会社

## 鈴鹿グリーンエナジー(株)は、市と民間事業者の共同出資により設立されましたが、どのようなメリットがあるのでしょうか。

地域新電力会社の設立には、まず電力業界に精通し、電力事業のノウハウを持った人材が必要です。行政が単独で設立するには、かなりハードルが高いと考えられますね。

このたび共同出資した東邦ガス(株)とアーバンエナジー(株)は、地域新電力会社を多数設立していますし、太陽光発電などの再生可能エネルギー発電施設を所有しており、小売電気

事業者としての運営実績が豊富です。

また、(株)三十三銀行は、金融業界における長年の実績から、会社が健全に経営されているか監査役として管理監督します。

このように、専門的のノウハウを持つ民間事業者と市が協力、連携することで、相乗効果を発揮し、安定した事業運営が可能になります。

また、地域に根差した会社であるからこそ、地元企業に対して営業活動も行いやすく、信頼関係も築きやすいというメリットがあります。

## 鈴鹿グリーンエナジー(株)の強みはどこにあるのでしょうか。

電気を無駄なく使うためには、電気をつくる量(供給)と、その時必要な電気の消費量(需要)が、同じであることが求められます。

鈴鹿グリーンエナジー(株)の場合は、供給側である鈴鹿市清掃センターが24時間稼働し、絶えず発電しており、需要側の市の施設

(送水場など)も24時間稼働し、電気を必要としています。このように、電気を安定して供給し、継続して消費する必要があるため、電気を無駄なく使用し、効率的な運営ができます。

## カーボンニュートラル社会の実現に向けて、一言お願いします。

世界的な課題である気候変動問題の解決に向け、多くの国や地域が2050年カーボンニュートラルを目標に取り組んでいます。

当社も、再生可能エネルギーを有効活用し、市と共にさまざまな温暖化対策を推進し、地域貢献していきます。

今の鈴鹿が誇る豊かな環境を次世代へ引き継いでいくため、2050年カーボンニュートラル社会の実現を目指し取り組んでいきますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

特集でも紹介しておりますように、本市は、再生可能エネルギーを有効活用するため、鈴鹿グリーンエナジー(株)を設立しました。

今後、再生可能エネルギーを生かした地産地消を推進し、2050年カーボンニュートラルの実現を図るとともに、次世代の子どもたちに、現在の豊かな環境を引き継ぎ、市民の皆様がいつまでも笑顔で過ごすことができる社会を創るための取組を進めてまいります。

本市は、昨年12月1日に市制施行80周年を迎えました。先人たちが培ってきた素晴らしい歴史の継承とともに、様々な工夫と挑戦により住みよい地域を創造し、「持続可能な鈴鹿市」として、更なる飛躍につなげてまいります。

本年が皆様にとって輝かしい1年となりますよう祈念いたします。

鈴鹿市長  
すずかのり  
末松 則子



今回の特集に関するご意見・ご感想は

環境政策課 ☎ 382-7954 📠 382-2214 📧 kankyoseisaku@city.suzuka.lg.jp